

2020年度自己評価結果公表シート

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」つまり、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体となる生き生きとした保育を支える教師力・保育力の向上や環境構成を目指す。

- ・幼児期に大切な教育と教員間での保育観の共通理解、保護者理解の研修を行う。
- ・子どもが安全に、そして安心して遊ぶことができるよう、危機管理に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・教師の子ども理解・資質向上を目指し、園内研修の充実に取り組み、各種研修会へも積極的に参加し、自己研鑽と共通理解に努めていく。	カリキュラムを見直し、子どもの興味に即したねらいを設けた。ねらい達成にむけて、また、よりよい保育に向けて全教員で自身の保育の振り返り、意見交換等の研修を行った。外部研修や教育方針の再確認と共通理解も行い、教師力・保育力の向上ができた。
・保護者とのコミュニケーション作りを努め、子どもの育ちや幼稚園の教育方針への理解・連携を構築していく。	広告やホームページ、SNS媒体を利用して、保護者はもちろん、園に興味をもっている方へ日々の保育の様子や出来事を写真等で、目で見て分かりやすいよう開示した。 登降園時には、コロナ禍でも子どもの成長の様子を伝えられるよう掲示板を通して保育の見える化を工夫し、保護者とのコミュニケーション作りを積極的に行った。 園に関するアンケートの内容を再検討し、実施した。結果をふまえ、保護者の思いや要望を取り入れて保育内容を見直した。
・樟蔭学園との連携。	大阪樟蔭女子大学児童教育学部の実習生を受け入れた。樟蔭高校児童教育コースの体験実習に加え、園外保育実習を行う時間を設けた。樟蔭学園英語教育センター及び大阪樟蔭女子大学の協力により、全学年の保育中の英語、年長クラスでの保育中のプログラミングを継続して行っている。
・危機管理の充実。	子どもが安全に、そして安心して過ごせるように園内の危険箇所の点検・修理を行った。また、保育中に避難訓練を実施し、教員も危機管理意識の再確認をしたり計画の見直しをしたりした。 コロナ禍において、日々の換気や消毒、清掃などの環境整備を徹底した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・コロナ禍ではあったが、行事を中止せず行えるよう内容や方法を工夫し、子どもの経験や学びを確保できるよう努めることができた。
- ・動画配信や電話等で定期的に子どもの様子を把握するなど、休園中も子育て支援に努めた。
- ・様々な場面でアンケートを実施し、保護者の声に耳を傾けながらよりよい保育の見直しに努めることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼稚園の魅力の周知方法	体験保育や園庭開放等、ホームページ、SNS、地域の新聞等を使用し、より多くの人に幼稚園に足を運んでもらえるようにする。
子育て支援の強化	園庭開放や未就園児クラスを通じて幼稚園や学園内施設を紹介し、親しみをもてるようにする。 長期休暇中の預かり保育を検討する。
危機管理の対応	施設の老朽化にともなう園内外の環境の改善を計る。 ビデオ通話を用いた保護者との連携を検討する。

6. 学校関係者よりの意見（令和3年3月23日実施）

- ・安心安全、質の高い保育の継続を願う。
- ・清潔な衛生環境を保ってほしい。
- ・働く保護者の入園が増えてきているため、柔軟に対応してほしい。
- ・給食日と弁当日の割合が良い。

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。